

信頼性向上・利用拡大に追い風

② に加えて、初めて環境安
全品質にかかる基準や
検査方法を規定して、更

検査方法を規定した。併し用後のリサイクルまで見据えた品質基準を整備し、鉄鋼スラグ製品の環境安全品質をライフサイクルで担保するようになつた。

環境側面を導入するための指針（JIS Q0064）が制定され、2003年に日本工業標準調査会が「建設分野の規格への環境側面の導入に関する指針」を示した。

環境安生品質
導入の経緯

これを受けて0会社は、
にはスラグ類の化学物質
溶出量・含有量の試験方
法を規定するJIS規格
を制定。06年には、下水
汚泥や一般廃棄物の焼却灰
を溶融固化した溶融フ
ラグが、同試験法を利用

今年3月、10年ぶりに
高炉スラグ骨材と電気高炉
酸化スラグ骨材の日本工
業規格（JIS A 5
0111）およびJIS
A 5011-4）が
改正され、同時に道路用
鉄鋼スラグ路盤材の日本
工業規格（JIS A
5015）も改正され
た。

品質項目の見直しなど



鉄鋼スラグ骨材

製品群の J I S 改正

環境安全質品 ライフサイクルで評価

様子 鉄鋼スラグを活用した道路用路盤材を施工する



術委員会委員の山中量二氏は「これまでも鉄鋼フ

鋼スラグ製品の一層の利用拡大が期待される。

質の溶出量や含有量など
を試験し、鉄鋼スラグ製
品の安全性を確認してい
たが、製品として利用さ
れた後のリサイクル利用
まで一貫した評価は行わ
れていなかった。

鉄鋼スラグへのJIS
環境安全基準導入を進め
てきた鉄鋼スラグ協会技
術

とに加え、これまで特段
の指針が示されていなか
った高強度コンクリート
についても配合設計や施
工について示されたこと
で、高強度コンクリート
への使用が容易にできる
ようになつた。鉄鋼スラ
グの安全性がより明らか
になつたことと併せ、鉄

道い風

た

JIS規格によるJISへのき

製品出荷から再利用
までの安全性を評価

ラグ製品の安全性は個別に管理されていたが、JISとなつたことでその安全性をより明確に示せるようになったと話す。

高強度コンクリート
へも使用可能に